

救急科



愛媛大学救急科専門研修プログラム

① 救急科紹介

愛媛大学医学部附属病院救急科は、1995年に訓令化された愛媛大学医学部救急医学講座を基盤としており、三次医療施設として救急外来における初期治療に引き続いて集中治療を行っています。**2017年2月からはドクターヘリ基幹連携病院**としてドクターヘリ事業を県立中央病院と分担して搭乗しています。各専門診療科と協力して治療にあたりますが、とくに下記の疾患では主担当で集中治療を行います。**チーム制で治療を担当しており、On-Offにも配慮**しています。

大学病院内の**院内急変対応 (Rapid Response System)** も担っており、院内医療安全にも寄与し、必要時は継続して集中治療を行います。松山、今治など**近隣の2次救急医療の診療・バックアップ**として救急医療の支援をしています。

- 多発性外傷**：治療の優先順位の決定、初期からの凝固線溶異常を意識して、PTD (preventable trauma death) の減少を目指す。**四肢・骨盤外傷、胸腹部外傷、血管内治療にも積極的に関わっています。**
- 重症敗血症・重症呼吸不全・多臓器障害**：現疾患治療とともに、ショックやDICに対する治療、人工呼吸管理・CHDF、PMXなどの血液透析、膜型人工肺を用いた体外循環ECMO (Extracorporeal membrane oxygenation) による集学的治療により救命を目指す。
【COVID-19では愛媛県内での重症患者を中心に治療を担い、人工呼吸管理・ECMO管理などを用いて、愛媛県内の多くの命を救ってきました】
- 特殊感染症**：破傷風、壊死性筋膜炎等の軟部組織感染症に対するデブリードマン、経皮的ドレナージ、NPWT (Negative Pressure Wound Therapy) などにより救命率向上を目指す。
- 低体温療法**：重症頭部外傷における低体温療法で長年培ってきたスキルを応用し、PCAS (Post-Cardiac Arrest Syndrome) に対して積極的に低体温療法を行い、神経蘇生、後遺症の軽減を目指す。

② プログラムの目的と特徴

- プログラム基幹病院** 愛媛大学医学部附属病院
- 県内連携病院**：愛媛県立中央病院、愛媛県立新居浜病院、愛媛県立今治病院、市立宇和島病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、済生会今治病院、市立八幡浜病院
- 県外連携病院**：広島県立病院、福井県立病院、兵庫県立加古川医療センター、京都第二赤十字病院、京都大学医学部附属病院、横浜市立大学病院、日本医科大学高度救命救急センター

当科では、愛媛県内・県外の病院群で救急科専門医研修プログラムを提供し、研修者には視野の広い救急専門医、素晴らしい人格者へと成長するように指導していきます。

救急科以外の専門医取得に関して、より積極的に支援をします。専門医獲得以降も各専門領域の技能獲得と維持とともに、救急医としてのレベルアップを重視します。期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。**国内・国外・基礎研究・臨床研究を踏まえた幅広い視野の持てる救急医育成が可能**です。Walk inの一次救急からER、三次救急、ドクターヘリ、災害医療、国内留学・海外視察など専門医プログラムに留まらない、**専修医の夢や目標を一緒に考えていきます。**

地域枠にも一つの魅力的な選択肢 (詳細は救急医学佐藤までご連絡をください)
日本救急医学会がダブルボードの取得に柔軟な考えを持っており、【救急科+他の専門医】に理解を示しています。救急科プログラムで救急科専門医を取得、その後他の専門医プログラムに属してダブルボード取得することが可能です。**愛媛県地域枠にもこの制度を取り入れました。**

③ 経験目標

- 専門研修1年次** (愛媛大学医学部附属病院 12か月)
 - ・研修到達目標：救急初療を理解し、時間的センスを身につける。また救急基本手技を習得し、救急医としての基礎を確立する。大学病院において横断的な集学的治療を研修する。
 - ・研修内容：指導医とともに治療を担当する。個々の症例に対してじっくりと考え、理解する。大学病院内で救急医療に関連する他の専門領域の勉強、ドクターヘリ・ドクターカーといったプレホスピタルケアの研修が可能である。大学病院だけでなく、研修関連病院でER型救急も行うことで、一次から三次救急・集中治療の研修が可能である。

- 専門研修2年次例** (愛媛県立中央病院、愛媛県立新居浜病院、松山市民病院、広島県立病院、福井県立病院、兵庫県立加古川医療センター・京都第二赤十字病院・京都大学・横浜市立大学病院、日本医科大学高度救命救急センターなど連携病院あるいは救急医療に関連する他科研修から合計12か月選択可能)
 - ・研修到達目標：救命救急センター、救急に関連する他科での診療研修において知識、技術を向上させる。
 - ・研修内容：数多くの症例を担当することによって、知識、技術を確立させる。研修者の希望に合わせて一次～三次救急医療・災害医療・ドクターカー・ヘリといったプレホスピタルケア・救急に関連する他科の研修が可能である。ER診療、ドクヘリ・プレホスピタル、重症外傷診療へのチーム医療、アカデミックな大学病院など多彩なラインナップから専攻医にあった研修先の選定

- 専門研修3年次例** (前年度の病院、市立宇和島病院、市立八幡浜総合病院、済生会今治病院などの研修、愛媛大学医学部附属病院での研修6か月を含み、あるいは救急医療に関連する他科研修など)
 - ・研修到達目標：救命救急センターにおいて重症急性病態の初療と集学的治療のマネジメント、地域救急医療の研修などを行い、積極的に学会への発表・参加も幅広い視野を持った研修を行う。
 - ・研修内容：救急初療、集学的治療においてリーダーとして治療を担当する。診療において後進指導を行う。また他職種と連携をとり、病棟管理を行う。地域のメディカルコントロールに参加する。国内・国外の学会発表、論文作成。

*ER研修においては、愛媛大学医学部附属病院在籍中に、松山赤十字病院救急部、松山市民病院、済生会松山病院などに出向して研修することが可能です。救急輪番の支援という形でも愛媛県内の病院と連携をとっています。他科研修については、愛媛大学医学部附属病院において救急科と連携して可能です。

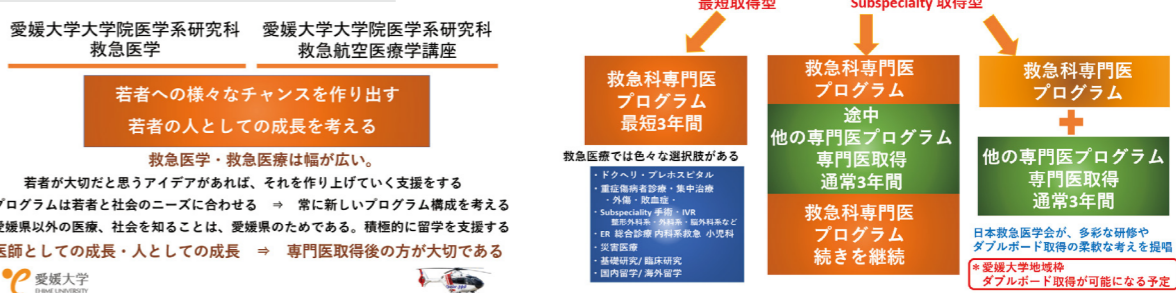
④ 指導医・指導体制 (愛媛大学大学院医学系研究科救急医学講座・救急航空医療学講座)

- 佐藤格夫 (救急科専門医・指導医、集中治療専門医)
- 竹葉 淳 (救急科専門医・整形外科専門医・日本体育協会公認スポーツドクター)
- 菊池 聡 (救急科専門医・指導医、外科専門医)
- 松本紘典 (救急科専門医・指導医、外科専門医)
- 邑田 悟 (救急科専門医・外科専門医)
- 大下宗亮 (救急科専門医)
- 播磨 裕 (救急科専門医・外科専門医)
- 安念 優 (救急科専門医)
- 向井直樹 (外科専門医)

⑤ 研修に関する行事

Off the job training (ご献体、生体動物、JATEC、JETEC、など)、多施設症例検討会、災害医療訓練、多職種での勉強会・カンファレンス、国際学会・国内学会への参加、海外短期視察など

⑥ 新専門研修プログラムについて



(カリキュラム制度/救急科3年+外科2年などでダブルボード取得可能など柔軟な制度が認可され始めました)

⑦ 専門研修終了後について

愛媛をよくするには、他の地域のことを知ることが重要であり、**積極的に国内・国外への留学を支援**します。**15年先を見越した各個人の希望を加味したオーダーメイドな研修を考えます。**

専門研修の問い合わせ先

- 募集定員 5名/年
- 応募期間 2023年秋(予定) ※日本専門医機構・専攻医登録スケジュールによる
- 応募書類:申請書、履歴書、医師免許証の写し
- 問い合わせ先および提出先 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454 愛媛大学医学部救急医学教室 救急科専門医研修プログラム委員会 佐藤格夫 宛
TEL: 089-960-5722 FAX: 089-960-5714
E-mail: drnori@m.ehime-u.ac.jp